

自然科学研究機構核融合科学研究所運営会議（第99回）議事要旨

1 日 時 令和6年11月19日（火）～令和6年11月22日（金）正午

2 開催方法 メール開催

3 出席者 別紙のとおり

4 配付資料

資料1-1 クロスアポイントメント人事に関する審議経過概要

資料1-2 【回収資料】クロスアポイントメント人事に関する計画書
（メタ階層ダイナミクスユニット・特任教授）

資料1-3 【回収資料】クロスアポイントメント人事に関する計画書
（メタ階層ダイナミクスユニット・特任准教授）

資料1-4 【回収資料】人事委員会提案

資料2-1 2025年度核融合科学研究所一般共同研究公募要領（案）

資料2-2 2025年度核融合科学研究所所外施設利用共同研究課題提案型共同研究
公募要領（案）

資料2-3 2025年度核融合科学研究所所外施設利用共同研究研究コア提案型共同研究
公募要領（案）

参考資料1 核融合科学研究所におけるクロスアポイントメントを適用する教員の人事に
関する申合せ

参考資料2 核融合科学研究所運営会議人事委員会規則

5 議 事

（審議事項）

1. 人事委員会の設置について

各委員に対し、メールにより審議を行った結果、以下のとおり承認した。

可 19名

否 0名

2. 2025年度共同研究（一般共同研究、課題提案型共同研究、研究コア提案型共同研究）
公募要領（案）について

各委員に対し、メールにより審議を行った結果、以下のとおり承認した。

可 19名

否 0名

(別紙)

自然科学研究機構核融合科学研究所運営会議（第99回）（メール開催）出欠確認表

職名等	氏 名	出欠	備考
量子科学技術研究開発機構副理事	石田 真一	出	
追手門学院大学教授	上田 良夫	出	
早稲田大学理工学術院先進理工学部教授	小澤 徹	出	
東北大学大学院工学研究科教授	金子 俊郎	出	
九州大学応用力学研究所教授	藤澤 彰英	欠	
名古屋大学大学院工学研究科教授	藤田 隆明	出	
京都大学大学院理学研究科教授	松岡 彩子	出	
京都光華女子大学健康科学部教授	森井 孝	出	
東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	山田 弘司	出	副議長
電気通信大学レーザー新世代研究センター教授	米田 仁紀	欠	
名古屋大学大学院理学研究科教授	渡邊 智彦	出	
副所長	藤堂 泰	出	議長
研究部長、プラットフォーム企画室長	坂本 隆一	出	
核融合科学学際連携センター長	村上 泉	出	
安全衛生推進センター長	長壁 正樹	出	
研究教育改善室長	永岡 賢一	出	
プラズマ・複相間輸送ユニット教授	森崎 友宏	出	
可知化センシングユニット教授	安原 亮	出	
超伝導・低温工学ユニット教授	今川 信作	出	
超伝導・低温工学ユニット教授	高畑 一也	出	
構造形成・持続性ユニット教授	市口 勝治	出	
委員数計	21名		
【出席者】 19名			
【欠席者】 2名			
【御意見等】 2名			
審議事項1. に係る御意見等			
・特になし			
審議事項2. に係る御意見等			
・公募要領の修文までは求めませんが、			
1) プラズマ・核融合学会のインフォーマルミーティングであった意見をくみ取ること			
2) 課題提案型であれ、研究コア提案型であれ、研究テーマを横ぐしとして所内外を問わない			

施設を利用する提案が考えられます。その際、杓子定規には所内施設利用の一般と、所外施設利用のこの二つが分断しているようにとられかねません。所内外の施設両方を使う場合は、一般共同研究＋課題提案型あるいは研究コア提案型の二つの申請をして、この二つが連携するという形を求めるのか、あるいはその場合は一般共同研究は割愛してよいのか、審査にあたって混乱しないように予め整理をしておく必要があると思います。

- ・説明文が少しわかりにくい気がしました。たとえば、課題提案型共同研究の公募文案では、P.4の最後の段落の最初に、「本公募では、(3) 課題提案型共同研究を募集します。」という一文があるとわかりやすくなると思います。コア型の方も同様です。